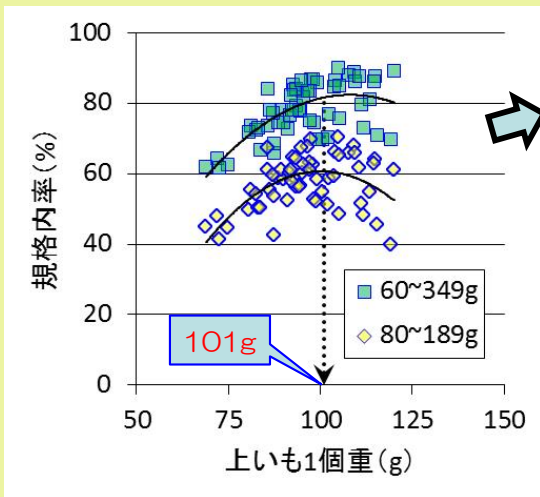


# ばれいしょの規格内率向上にはやっぱり茎数確保が大事

## 概要

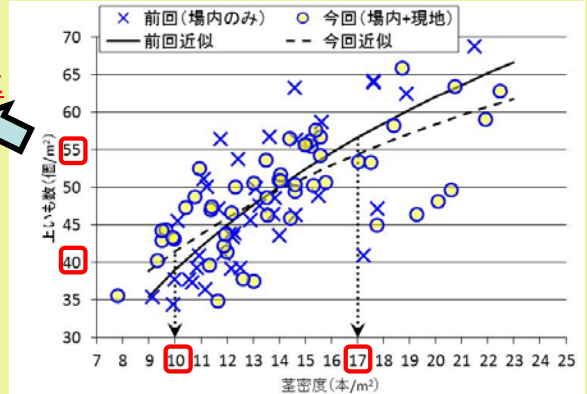
- 規格内率向上のため、**m<sup>2</sup>あたり茎数(茎密度)を目安**にできる。
- このためには、『種いもの茎数確保』と『均一な株間での播種』がポイントとなる。
- 種いものエチレン処理には茎数増加効果が、ヒートショック(HS)処理には生育促進効果がある。



○目標1個重のための上いも数と茎密度は、**圃場の収量水準で異なる**

1個重が101gとなるとき個数(「トヨシロ」の場合)

収量水準 (t/10a)	上いも数 (個/m <sup>2</sup> )	茎密度 (本/m <sup>2</sup> )
4.0	40	10~11
4.5	45	12
5.0	50	14
5.5	54	16~17



十勝農試と現地2箇所では、茎あたりのいも数に大差なし

「トヨシロ」で規格内率が最高になるのは、上いもの平均1個重101gのとき

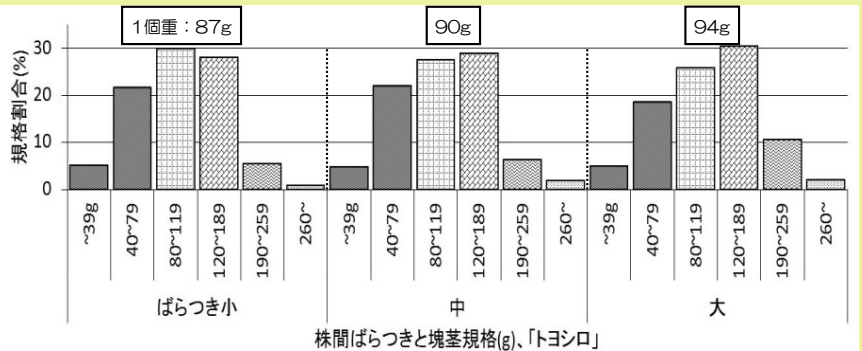
浴光不足では茎数、いも数、収量が低下する。

浴光日数	茎数 本/m <sup>2</sup>	上いも数 (個/m <sup>2</sup> )	上いも重 (t/10a)	規格割合	
				60~349g	1個重 (g)
0	10.2	53	4.61	82	86
14	7.9	38	4.39	81	115
20	9.6	43	4.60	87	107
27	9.5	49	4.66	83	95

注) 浴光日数0(有効積算温度141℃、暗黒)、14(同温度142℃)、20(同温度155℃)、27(同温度172℃)  
品種は「トヨシロ」、種いものは中半切

栽植指標(H22提示)は現地で利用可能

栽植密度(=茎密度)が同じでも、**株間のばらつきが大きくなると塊茎は大粒化する**



種いも予措・播種に関する基本技術の励行(浴光催芽による茎数の確保、播種機調整、作業速度)が重要

## エチレン処理による茎数増加と小粒化

エチレン	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	いも数 (個/m <sup>2</sup> )	一個重 (g)	上いも重 (t/10a)	規格内収量 (t/10a)	40~120g いも重 (t/10a)
有	19.5	55.2	80	4.23	3.27	2.71
無	14.5	44.1	100	4.27	3.64	2.11

注1)4品種(「トヨシロ」「スノーデン」「さやか」「十勝こがね」)  
注2)エチレン処理は2月上旬以降に4ppm、8℃で長:72.63日、中:49.35日、短:29.21日間(各H23.24の値)で貯蔵し、その後は無処理と同様に通常の浴光処理を実施。  
注3)規格内収量:M-2L(60~259g)

○加工用ばれいしょの長期貯蔵に利用されるエチレン処理(高温貯蔵+エチレンによる萌芽抑制)は、種いもに対しては**頂芽優勢の打破による茎数増加効果**が見込まれる。

## HS処理による生育と収量

品種	HS処理	萌芽日数	茎長 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	規格内収量	
					無処理差平均	無処理比
トヨシロ	短	-1.2	3.1	2.5	95	
	長	-2.0	2.5	3.2	104	
さやか	短	-1.1	0.9	-0.4	103	
	長	-1.9	2.5	0.5	92	
十勝こがね	短	-1.0	0.6	1.3	103	
	長	-2.8	2.5	1.9	105	

H23~25平均  
注1)萌芽日数: 植付~萌芽期、茎長・茎数: 6月調査、規格内収注2)HS処理: 4月中下旬に短: 8日間、長: 13日間、15℃暗黒条件下で貯蔵し、その他の期間は無処理と同様の通常浴光処理を実施。

○HS処理による茎数増加効果は不安定だが、初期生育は促進される。

検討した予措技術のうち、エチレン処理では茎数及びいも数の安定的な増加効果を示した。

HS処理の初期生育促進効果により、極長休眠品種では生産安定化につながる可能性がある。